

国語 第2学年 ビーバーのひみつをつたえよう

自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。以下の指導案を、私の学級に合わせて直してください。最初に学級の人数と学習の組み方、関連する既習事項、読む・書く・話す際の困難や必要な配慮、使える授業時間と研究授業の位置、ICTと紙の道具について、一項目ずつ質問し、答えを待ってから次へ進んでください。条件がそろったら、ビーバーの工事を、仕事の順序と体の働きに注意して読み、大事な言葉を使って説明する。写真から感じたすごさだけで終わらず、何をどのように行うかを本文で確かめる。このねらいを保ち、目標・評価規準・計画・本時の活動の対応を確かめて全文を書き直してください。本文や台詞、挿絵、教科書固有の問題文は転載しないでください。時数や人数、時間配分は私の回答か出典があるものだけを使ってください。児童の反応を実測した事実として書かず、予想として示してください。三重の指導案の見出しの順を保ち、教師向けの文章に内部IDなどを出さないでください。変更した所と、その根拠となった私の回答を最後に示してください。直す対象の学習指導案は、この後に続けて書きます。

————ここから直す対象の学習指導案————

第2学年 国語科学習指導案

1 単元名 「ビーバーのひみつをつたえよう」 教材名「ビーバーの大工事」

2 単元の目標

工事の説明を比べ、事柄の順序と体の働きとの関係を理解できる。工事の様子を表す重要な語や文を選び、読んで確かめたことを友達に知らせられる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①工事の説明を比べ、事柄の順序と体の働きとの関係を理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア）

〔思考・判断・表現〕①「読むこと」において、工事の様子を表す重要な語や文を選び、読んで確かめたことを友達に知らせている。（C(1)ウ・C(1)カ）

〔主体的に学習に取り組む態度〕①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

ビーバーの工事を、仕事の順序と体の働きに注意して読み、大事な言葉を使って説明する。写真から感じたすごさだけで終わらず、何をどのように行うかを本文で確かめる。学習指導要領のC(1)ウ・C(1)カを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(2)アを、言語活動の中で確かめる。

（2）児童について（学級の実態を書く）

（3）指導について

工事の手順を自分の絵や短文にし、その横に体の働きを記す。本文で確かめたことと想像を分ける。動作で説明した後も、基にした言葉へ戻る。おおむね満足できる状況は、工事の様子を表す重要な語や文を選び、読んで確かめたことを友達に知らせているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全11時間）

第1次 第1～2時：○全文を読み、工事について知りたいことと初めて知ったことを出す。評価：学習状況を見て支援する。

第2次 第3～4時：○工事の順を確かめ、各段階の動きを短く表す。評価：知①（語句や内容の整理）

第2次 第5～6時：○体の働きと作業を対応させ、大事な言葉を探す。評価：学習状況を見て支援する。

第2次 第7時（本時）：○順序と動きの言葉を使って工事の様子を説明する。評価：思①（発言・学習記録）

第2次 第8～9時：○紹介文や自分の図にまとめ、本文との対応を確かめる。評価：学習状況を見て支援する。

第2次 第10時：○紹介を聞き合い、説明が足りない所を直す。評価：学習状況を見て支援する。

第3次 第11時：○重要な言葉を選んで読むことのよさを振り返る。 評価：態①（学習前後の記録・振り返り）

6 本時の指導（7／11）

（1）本時の目標

工事の様子を表す重要な語や文を選び、読んで確かめたことを友達に知らせられる。

（2）学習過程

【導入】

学習活動：本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。

○「ビーバーが工事をする様子を知らせるには、どんな順序で、どの動きを表す言葉を使いますか」

【めあて】ビーバーの工事を、仕事の順序と体の動きに注意して読み、大事な言葉を使って説明する。

予想される児童の反応：・仕事の順を替えると工事の様子が伝わらない。

指導上の留意点：本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。

【展開】

学習活動：○「ビーバーが工事をする様子を知らせるには、どんな順序で、どの動きを表す言葉を使いますか」

自分で言葉や本文の箇所を確認、理由を添えて考えを書く。ノートを示して説明し、聞き手は確かめたところと、まだ確かめたいところを返す。全体では考えが分かれた箇所を取り上げ、何を根拠にしたかを比べる。

予想される児童の反応：・仕事の順を替えると工事の様子が伝わらない。

・体のどこをどう使うかが大事だ。

・同じ動きを表す言葉を使うと友達にも伝わる。

指導上の留意点：工事の手順を自分の絵や短文にし、その横に体の動きを記す。本文で確かめたことと想像を分ける。動作で説明した後も、基にした言葉へ戻る。

想定する難しさ：工事の結果だけを話す。人間の道具を使うように想像して説明する。

児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。

評価：思① 工事の様子を表す重要な語や文を選び、読んで確かめたことを友達に知らせている。（発言と学習記録）

【まとめ】

学習活動：【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。

学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。

予想される児童の反応：・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。

・同じ動きを表す言葉を使うと友達にも伝わる。

指導上の留意点：まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って紹介や説明の文章を直す。

評価：態①（学習前後の記録と、見直した理由）

（3）板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「ビーバーが工事をする様子を知らせるには、どんな順序で、どの動きを表す言葉を使いますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

